

資料編



1. 恵庭市の現況・特性

1-1 位置と面積

位置

東端 東経 141° 39' 10"
 西端 東経 141° 14' 07"
 南端 北緯 42° 47' 45"
 北端 北緯 42° 59' 16"
 海拔 34.10 m

広ぼう

面積 294.65 km²
 東西 34 km
 南北 23 km



図 1-1 恵庭市の概要

1-2 人口・世帯

(1) 人口・世帯数の推移

表 1-1 恵庭市の人口・世帯数の推移

年次	H7	H12	H17	H22	H27
人口	62,351	65,239	67,614	69,384	69,702
世帯数	21,383	23,660	25,662	27,634	28,846
世帯当たり人員	2.9	2.8	2.6	2.5	2.4

資料:国勢調査

(2) 年齢別人口の推移

表 1-2 年齢（3区分）別人口推移

	人口						人口比率				
	H7	H12	H17	H22	H27	H27/H7	H7	H12	H17	H22	H27
15歳未満	11,334	10,620	10,211	9,690	9,132	0.81	18.2%	16.3%	15.1%	14.0%	13.1%
15～64歳	44,328	45,305	45,556	45,110	42,897	0.97	71.1%	69.4%	67.4%	65.0%	61.5%
65歳以上	6,683	9,313	11,847	14,427	17,465	2.61	10.7%	14.3%	17.5%	20.8%	25.1%
年齢不詳	6	1	—	157	208	34.67	0.0%	0.0%	—	0.2%	0.3%
合計	62,351	65,239	67,614	69,384	69,702	1.12	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

資料:国勢調査

(3) 人口の推計

表 1-3 恵庭市独自推計による人口の展望

	R2	R7	R12	R17	R22
15歳未満	8,755	8,593	8,600	8,478	8,410
15～64歳	41,390	39,993	38,130	35,980	33,501
65歳以上	20,137	21,240	22,121	23,003	24,089
合計	70,282	69,825	68,851	67,461	66,000

※R1.10 推計値
資料: 恵庭市人口ビジョン 2019

(6) 住宅の状況

1) 住宅所有関係別世帯数の状況

表 1-4 住宅の所有の関係別住宅に住む一般世帯数の推移 (単位上段-世帯、下段-%)

調査年	住宅に住む一般世帯	主世帯						間借り
		総数	持ち家	借家				
				総数	公営・都市再生機構の借家	民営の借家	給与住宅	
H7	20,948 100.0	20,748 99.0	13,325 63.6	7,423 35.4	1,292 6.2	4,991 23.8	1,140 5.4	200 1.0
H12	23,261 100.0	22,883 98.4	14,870 63.9	8,013 34.4	1,303 5.6	5,717 24.6	993 4.3	378 1.6
H17	25,367 100.0	24,610 97.0	15,908 62.7	8,702 34.3	1,326 5.2	6,489 25.6	887 3.5	757 3.0
H22	27,335 100.0	26,927 98.5	17,156 62.8	9,771 35.7	1,121 4.1	7,914 29.0	736 2.7	408 1.5
H27	28,458 100.0	28,120 98.8	18,019 63.3	10,101 35.5	1,099 3.9	8,428 29.6	574 2.0	338 1.2

資料：国勢調査

2) 空き家の状況

表 1-5 居住世帯の有無(8区分)別住宅数及び住宅以外で人が居住する建物数の推移

年次	総数 (戸)	居住世帯あり				居住世帯なし								住宅以外で人が居住する建物数 (棟)
		同居世帯なし (戸)	同居世帯あり (戸)	一時現在のみのみ (戸)	空き家				建築中 (戸)					
					二次的住宅 (戸)	賃貸用の住宅 (戸)	売却用の住宅 (戸)	その他の住宅 (戸)						
H10	23,570	21,320	21,080	240	2,260	20	2,220	-	-	-	-	20	40	
H15	26,320	22,840	22,790	50	3,480	10	3,380	60	1,960	180	1,180	90	60	
H20	30,610	26,570	26,450	120	4,050	130	3,920	90	2,590	90	1,150	-	40	
H25	29,740	26,780	26,420	360	2,960	30	2,890	20	2,030	50	790	40	40	
H30	33,590	29,460	29,250	210	4,130	30	4,070	20	2,910	50	1,090	40	20	

年次	総数 (%)	居住世帯あり				居住世帯なし								住宅以外で人が居住する建物数 (%)
		同居世帯なし (%)	同居世帯あり (%)	一時現在のみのみ (%)※1	空き家				建築中 (%)※1					
					二次的住宅 (%)※2	賃貸用の住宅 (%)※2	売却用の住宅 (%)※2	その他の住宅 (%)※2						
H10	100.0	90.5	89.4	1.0	9.6	0.1	9.4	-	-	-	-	0.1	0.2	
H15	100.0	86.8	86.6	0.2	13.2	0.0	12.8	1.8	58.0	5.3	34.9	0.3	0.2	
H20	100.0	86.8	86.4	0.4	13.2	0.4	12.8	2.3	66.1	2.3	29.3	-	0.1	
H25	100.0	90.0	88.8	1.2	10.0	0.1	9.7	0.7	70.2	1.7	27.3	0.1	0.1	
H30	100.0	87.7	87.1	0.6	12.3	0.1	12.1	0.5	71.5	1.2	26.8	0.1	0.1	

※1 「一時現在のみのみ」「空き家」「建築中」の割合は「居住世帯無」に占める割合

※2 「二次的住宅」「賃貸用の住宅」「売却用の住宅」「その他の住宅」の割合は「空き家」に占める割合

資料：住宅土地統計調査

1-3 産業

(1) 農業

表 1-6 農家人口一人当たりの経営耕地面積

(単位:ha)

	H7	H12	H17	H22	H27
経営耕地面積	1.79	2.03	2.65	4.83	7.27

資料：農林水産省農林業センサス

表 1-7 農業生産額

(単位：千万円)

	H7	H12	H17	H22	H27
農業生産額	585	520	553	—	503

※平成 19 年～平成 26 年の期間は農林水産省において市町村別統計が作成されていないため、平成 22 年数値は掲載なし

資料：農林水産省農林業センサス

(2) 工業

表 1-8 製造品出荷額等の推移

(単位：億円)

	H7	H12	H17	H22	H27
製造品出荷額等の推移	1,325	1,254	1,328	1,363	1,459

資料：工業統計調査

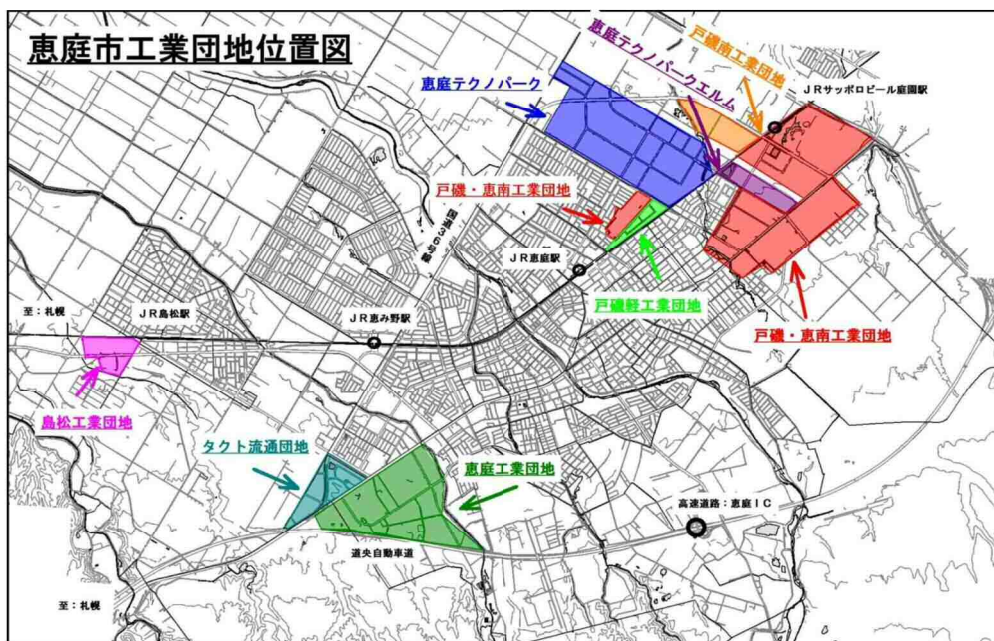


図 1-5 恵庭市工業団地位置図

(3) 商業

表 1-9 事業所数と従業者数（卸売・小売業）

	H11	H14	H19	H24	H28
事業所数	504	486	429	343	358
従業者数(人)	4,178	3,953	3,735	3,054	3,721

資料：経済産業省 商業統計調査
経済センサス

表 1-10 小売業と卸売業の年間販売額

(単位：百万円)

	H11	H14	H19	H24	H28
小売業	60,179	57,058	53,503	45,996	57,796
卸売業	21,865	24,665	29,413	44,031	64,129
合計	82,044	81,723	82,916	90,027	121,924

資料：経済産業省 商業統計調査
経済センサス

(4) 観光

表 1-11 観光入込客数の推移

(単位：千人)

	H12	H17	H22	H27	R1
入込総数	400.8	412.1	1224.1	1354.7	1390.9
道外客	103.3	118.0	159.1	226.7	225.8
道内客	297.5	294.1	1065.0	1128.0	1165.1
日帰り客	387.4	392.7	1218.3	1348.7	1386.5
宿泊客	13.4	19.4	5.8	6.0	4.4

資料：北海道観光入込客数調査報告書

1-4 恵庭市のまちの変遷と特性

(1) 恵庭市の歴史

恵庭市の地名は、アイヌ語の「エエンイワ」(現・恵庭岳を指し、鋭く尖った山という意)が由来とされています。

柏木川、ルルマップ川、島松川沿いに形成された集落が、1897年(明治30年)に漁外一箇村戸長役場が設置され、1906年(明治39年)の北海道二級町村制により恵庭村として発足しました。広大な水田による米作を中心に農村として発達してきましたが、北海道鉄道(現・国鉄千歳線)の開通、次いで警察予備隊の駐屯による大幅な人口増加に伴い、徐々に工業団地化や住宅団地化が進んでいきました。

元々札幌に隣接していた恵庭ですが、1953年(昭和28年)の国道36号舗装を中心とする道路交通網の整備により輸送効率が大幅に上昇し、更に地域としての利便性が向上していきます。

こうした中で戦後も人口が増加し続けた恵庭村は1951年(昭和26年)の町制を経て、1970年(昭和45年)に市制を施行し、現在の恵庭市となりました。



写真：JR 恵庭駅



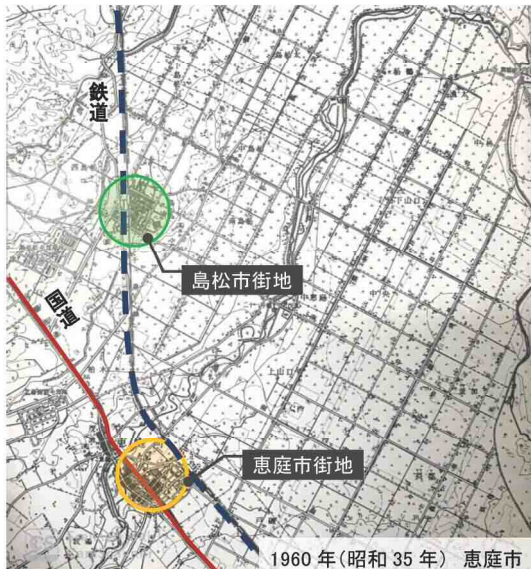
写真：道と川の駅

(2) 恵庭市の変遷



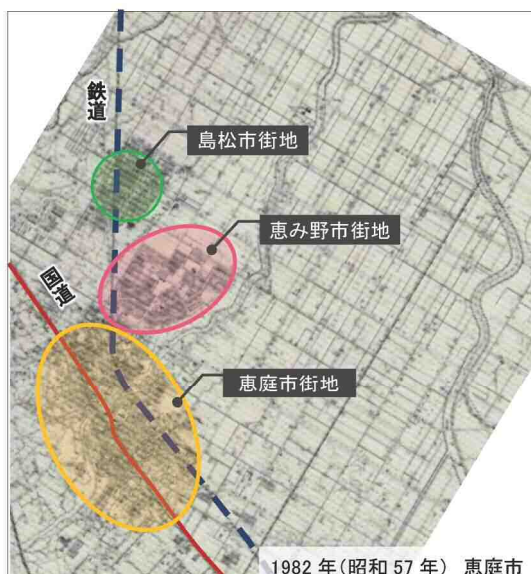
【恵庭市街地の形成】

- ・ 柏木川・ルルマップ川・島松川沿いに集落が形成され、米作を中心に発達しました。
- ・ 1873年（明治6年）開拓使庁による札幌本道の開通とともに島松沢に駅通所が設置され、町域西方の森林開発を背景に旅館・飲食店の並ぶ街村が形成されました。
- ・ 1894年（明治27年）漁川右岸にほぼ南北の基線を敷き、東西南北に殖民区画線を入れました。
- ・ 1903年（明治36年）茂漁に御料局漁分担区員駐在所が設置され、山林伐採が始められたことや、御料農地、盤尻地区に殖民が行われたことより、漁本通地区に市外が形成され始めました。
- ・ 1953年（昭和28年）国道36号が道路舗装され「弾丸道路」と呼ばれています。



【島松市街地の形成】

- ・ 1926年（大正15年）に北海道鉄道株式会社による苗穂～沼の端間の鉄道が開通し、恵庭駅、島松駅が設置されました。
- ・ 駅が設置されたことで島松市街は発展し、自衛隊島松駐屯部隊の増強などで市街が拡大しました。



【恵庭市街地の拡大、恵み野市街地の形成】

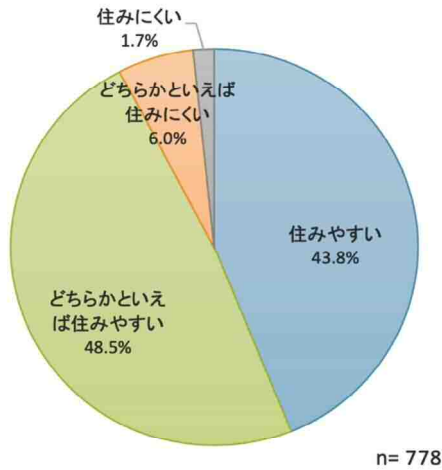
- ・ 1970年（昭和45年）に人口が3万4千人を超え、町から市となりました。
- ・ 南島松地区に「恵庭ニュータウン恵み野」が開発され、1982年（昭和57年）に恵み野駅が設置されました。

資料：日本図誌大系 北海道・東北Ⅰを基に編集

1-5 市民意識の特徴

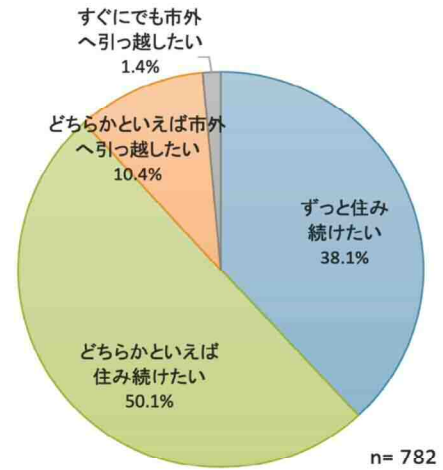
(1) 住み心地

～あなたにとって「恵庭市」の住み心地はどうですか

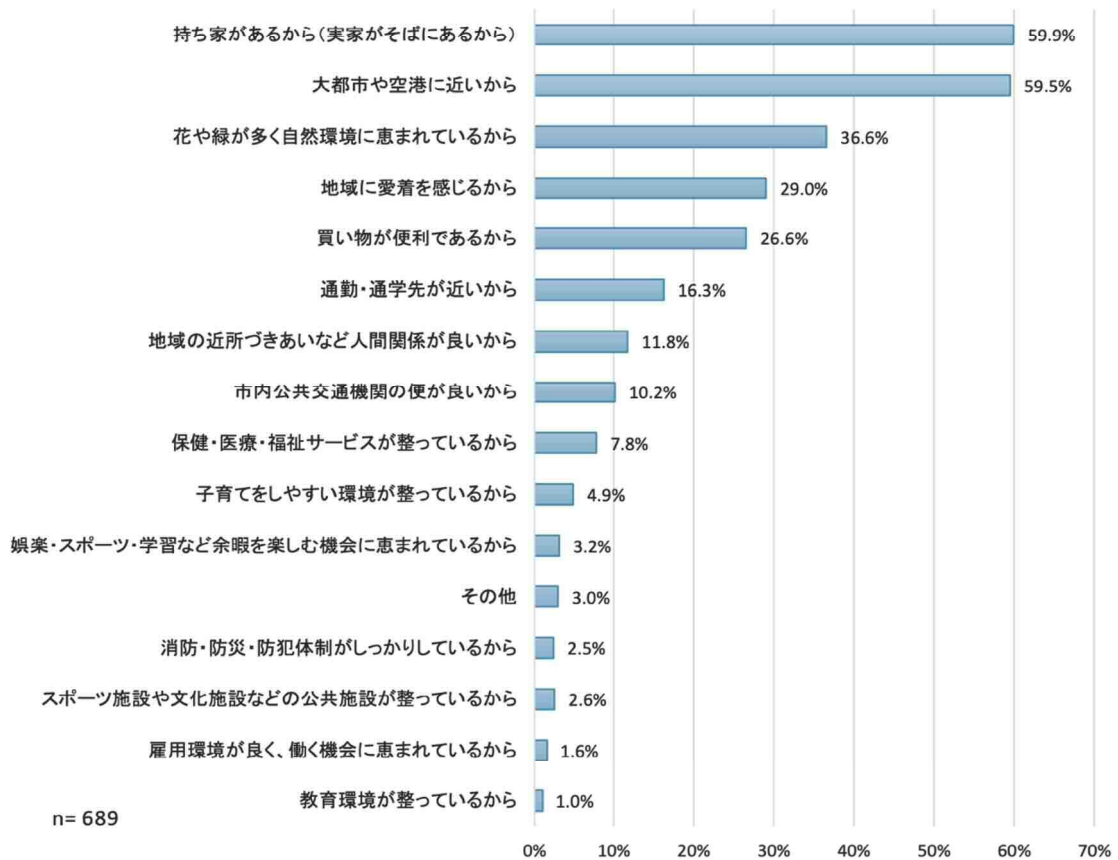


(2) 定住意向

～あなたは、これからも「恵庭市」に住み続けたいと感じますか



(3) 定住意向の理由 ～あなたが今後も「恵庭市」に住み続けたい理由は何ですか



資料：令和元年度 恵庭市市民意識調査 調査結果報告書

2. SWOT 分析

■ SWOT 分析※

	プラス要因	強み	マイナス要因	弱み
内部要因	<p>〈人口〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口増加傾向(広域でも人口増) 新たな宅地・住宅地のニーズ増加 <p>〈産業・観光〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流人口の拡大、交流拠点の充実(道と川の駅「花ロードえにわ」「かのな」) 道内有数の花苗の産地であり、花を活かしたまちづくりの発展、観光資源としての認知 カボチャ、大根、ブロッコリーなどの露地野菜の農産品や農商工連携による商品開発、販売が盛ん <p>〈交通〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 札幌市、新千歳空港の中間に位置するJR 駅を拠点とする交通アクセスの良さ <p>〈暮らし〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民アンケートにおいて 9 割が恵庭市は住みやすい、今後も住み続けたいと回答*1 近隣市(千歳市・北広島市)に比べ、JR 駅1km 圏内に公共施設や病院が多い*2 市民のごみマナー意識が高い*1 		<p>〈シティプロモート〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 知名度の低さ 〈人口〉 高齢化の進行 人口減少による居住空間のスポンジ化への懸念 町内会等をはじめとする地域コミュニティの衰退 <p>〈暮らし〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内公共交通の便が低い 買い物が不便、魅力的な店が不足 就労の場が不足 駅周辺のにぎわい不足 <p>〈観光〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 宿泊施設が少なく、日帰り観光客が大半 恵庭市ならではの観光資源の魅力不足*3 観光資源の周知不足、観光案内機能の不足 <p>〈行政運営〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 市政情報の分かりにくさ 透明性の低い行政運営 	
外部要因	<p>〈テクノロジー〉</p> <ul style="list-style-type: none"> AI・IoT の普及 MaaS などの新たな交通サービスの普及 情報化社会の進展(インターネット、スマートフォン、SNSなど) <p>〈観光〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国的な観光産業の拡大、インバウンドの増大 LCC 路線の拡大 北海道新幹線(新函館北斗)の開通 <p>〈ライフスタイルの変化等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 価値観、ライフスタイルの多様化 「働き方改革」によるワークスタイルの変化 サイクリング・フットパスなど健康志向の高まり シェアリングエコノミーやキャッシュレス決済の普及など、新たな経済システムの発展 SDGs への関心の高まり 防災への関心の高まり 	機会	<p>〈人口〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国的な人口減少、高齢化社会の到来 <p>〈自然・環境〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然災害の増加 環境問題の進行 新型コロナウイルス感染症の拡大による変化 	脅威

*1 令和元年度 恵庭市市民意識調査 調査結果報告書

*2 恵庭市独自調査(平成 29 年度)

*3 「第2期恵庭市観光振興計画」から一部抜粋

※SWOT 分析

SWOT 分析は、対象の強み(Strength)、弱み(Weakness)、機会(Opportunity)、脅威(Threat)について分析し、全体的な評価を行う手法。強みと弱みは主として対象の内部要因を分析(内部環境分析)、機会と脅威は同様に対象の外部要因の分析(外部環境分析)を行うもの。

3. 恵庭市都市計画マスタープランシンポジウム

(1) 開催日時・場所

- ①開催日時：令和2年11月18日（水）
- ②開催場所：恵庭リサーチ・ビジネスパーク 3階 視聴覚室
- ③参加人数：25名（定員30名）

(2) 開催テーマ

ガーデンシティのブランドづくり～新たな恵庭市都市計画マスタープランの策定～

(3) 開催内容

- ①恵庭市のこれからのまちづくりについて（都市計画マスタープランの中間報告）
- ②講演「地域に根差したまちづくり」
株式会社良品計画 無印良品札幌パルコ土着化担当 鈴木恵一氏
- ③意見交換会

表 3-1 意見交換のまとめ

1. ガーデンシティの推進

ガーデンシティの推進	
①ガーデンシティの軸をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・JR沿線に列車から見える「カラフルな花畑ゾーン」を設置する。 ・道道46号は既存の銀行や飲食店に加えて、緑と花のまちとして花のイメージをつくる。
②ガーデンシティのイメージを育てる	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの緑や花を確実に増やしていくことが必要である。 ・ガーデンシティは、一輪の花からの気持ちが大切である。 ・各住宅・各事業者で少しでも良いので花を植えるようにする。 ・恵庭市民の全員が花を玄関の外に飾る日をつくる。 ・春はすずらん、夏はピオラ、秋はロウソクの中に花を入れ、冬は雪で花をつくる。 ・東川町の「君のイス」のように子どもが生まれたらまちが樹木をプレゼントするといったことが必要である。 ・ガーデン&「○○」イベントとか農業&「○○」イベントなどが良いのではないか。 ・花いじりが少ない高齢者用のフリー花畑を設置することで住み良いまちを実現する。 ・ガーデンシティの担い手としては高齢者の人が考えられる。
③ガーデンシティのブランド力を高める	<ul style="list-style-type: none"> ・ガーデンシティのファンづくりにより海外や他地域からの投資を増やすことを狙う。

2. 新たな暮らし・働き方への対応

2-1 住宅地の整備	
①優良田園配慮型住宅等の開発	<ul style="list-style-type: none"> ・利便性と自然環境を併せ持つ恵庭らしく、単なる宅地造成ではない他のまちと違ったシティセールス、恵庭らしい具現化を進めると良いと思う。 ・盤尻・牧場方面で自然（山や森）が身近に感じられる住宅地の開発を行う。
②住宅地の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・宅地面積が大きい住宅地（ふれる恵み野、ブレスドガーデン恵庭）も数年で完売したため、これからも大きな宅地面積の住宅地が必要ではないか。 ・市営住宅の用地（柏陽団地）が優良な住宅地になる。このような計画を進めて、ガーデンシティにふさわしい街並みにして欲しい。移住希望者が多いので、住宅地が足りません。
③職住近接の住宅団地整備	<ul style="list-style-type: none"> ・「住む」と「働く」をセットにできるのが恵庭の魅力である。 ・移住定住の人のための特色ある住宅地を造成する。
④恵庭市居住を誘導する助成制度	<ul style="list-style-type: none"> ・住みたいまち・住んでみたいまちにする。 ・恵庭市に住むことを条件に住宅建設の助成金や支援金をつくる。 ・建築条件付きではない住宅用地の造成を願います。
2-2 働く場の創出と企業誘致	
①移住・定住につながる働く場	<ul style="list-style-type: none"> ・働く場所が必要であり、産業と工業などの創出が必要である。 ・定住人口や財政を増やすために働く場所を確保する。 ・With コロナ、After コロナを見据えて、環境の良さ、地の利の良さを海外向けに訴求し移住定住を促す。 ・農業や観光業を活かして移住者支援事業を行う。 ・行政として雇用の一部補助などの制度や仕組みがあると良い。
②新しい働き方の推進（移住・定住政策と連携）	<ul style="list-style-type: none"> ・リモートオフィス事業・サテライトオフィス企業の誘致。 ・リモートワークのできるオープンオフィスの設置。 ・コロナの影響で今後リモートワークが増加すると思う。 ・コワーキングスペースを提供する。
③企業誘致しやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・IT 起業家（個人）の開業可能な環境づくりが必要である。 ・IT インフラの整備などを進め、ネット上での関係人口を増やす。

3. コンパクトシティの推進

3-1 JR 駅周辺(拠点)の賑わいづくり(エリアマネジメント)	
①エリアマネジメントによる空き家・空き店舗を活用した交流施設	<ul style="list-style-type: none"> ・停車場通りにある空き家や空き店舗を活用した住民や恵庭を訪れる人たちが集える場があると良い。 ・子どもや若者、多世代が立ち寄り落ち着ける場所「みんなの居場所」が必要である。カフェなどがあるとなおさら良い。
②恵み野駅前における商業施設の跡地活用	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前のスーパー（現在は空き店舗）には、地域の理解ある事業者に出店して欲しい。
③恵庭駅周辺の複合化	<ul style="list-style-type: none"> ・恵庭駅前通りにある旧図書館の建物を活用して、これから企業する方のチャレンジの場にするほか、小さな飲食店がいくつも入れるようにする。

3-2 市民の交流の場づくり(公共施設の複合化・マネジメント)	
①公共施設の複合化	<ul style="list-style-type: none"> ・既存公共施設の複合化を進める。 ・若草地区(柏陽町)の市営団地跡地を開発して、複合施設を早期に建設する。
②サードプレイス・各駅付近にフリースペース設置	<ul style="list-style-type: none"> ・「えにあす」のようなサードプレイスを活用する。 ・「えにあす」のフリースペースのような場を各駅の近くにつくる。その時Wi-Fiは必須である。
③市民の交流を生むイベント	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代が集まるイベントや多世代で交流できるイベントを行う。
3-3 歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりの推進	
①健康増進・環境配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・歩いて生活できるまちにすることで健康推進やCO2の削減につながる。
②歩行者系・自転車ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車活用により近隣市町村などとの交流が進む。
③エコバスの活用(路線の拡充・観光ルート走行)	<ul style="list-style-type: none"> ・生活者の「日常的な足」、市外からの人の「観光の足」としてエコバスを活用できるようにする。 ・市内3地域(恵庭・恵み野・島松)を巡りながら、地域づくりをテーマにした意見交換会を開く。

4. その他

4-1 シビックプライド・まちづくりの人材づくり	
①市民参加によるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・恵庭市民が全員でまちづくりを行う。
②外からの人を受け入れ活性化につなげる	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちとつながっていくことで地域の活性化に役立っていると思う。そして次の世代につながって欲しい。
4-2 その他	
①SDGsを推進する計画づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんなの居場所」となる店舗に恵庭のもう一つの大きな資源である「風」をエネルギーとした風力発電で明かりや電源として利用できたらひとつの目玉にもなるのではないだろうか。
②防災機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ガスによる自家発電が災害時に力を発揮した。 ・平時から多世代による利用が、災害時などの有事にも役に立つと考える。

4. 恵庭市都市計画マスタープラン策定体制及び主な策定の経緯

4-1 恵庭市都市計画マスタープラン策定体制

(1) 恵庭市都市計画審議会

表 4-1 恵庭市都市計画審議会 (14期※)

氏名	所属・役職	備考
岩井 利海	恵庭市議会議員	令和3年5月まで
柏野 大介	恵庭市議会議員	
加藤 強	道央農業協同組合理事	
佐々木 敏文	市民を代表する者(一般公募)	
瀬川 真弓	市民を代表する者(見識を有する者)	
瀬戸口 剛	北海道大学大学院工学研究院長・ 工学院院长・工学部長	会長
土谷 秀樹	恵庭商工会議所副会頭	
野沢 宏紀	恵庭市議会議員	令和3年5月まで
野田 政志	北海道札幌建設管理部千歳出張所長	
長谷 文子	恵庭市議会議員	令和3年6月から
松島 緑	恵庭市議会議員	令和3年6月から
南出 典彦	恵庭市議会議員	令和3年6月から
武藤 光一	恵庭市議会議員	令和3年5月まで

※第14期：令和2年7月1日～令和4年6月30日
(50音順 敬称略 令和3年6月現在)

(2) 有識者より意見を伺う会

表 4-2 有識者より意見を伺う会

氏名	所属・役職	備考
岡本 浩一	北海学園大学工学部建築学科教授	
北越 俊二	恵庭市副市長	令和3年3月まで
瀬戸口 剛	北海道大学大学院工学研究院長・ 工学院院长・工学部長	
高野 伸栄	北海道大学工学研究院土木工学部門 社会資本計画学教授	
堀川 裕巳	北央鑑定サービス株式会社代表取締役	
横道 義孝	恵庭市副市長	令和3年4月から

(50音順 敬称略)

4-2 策定の主な経緯

表 4-3 恵庭市都市計画マスタープラン策定の経緯

年度	月	内容
令和2年度	令和2年8月	有識者より意見を伺う会（第1回）
	令和2年10月	恵庭市都市計画審議会 素案報告
	令和2年11月	恵庭市都市計画マスタープランシンポジウムの開催
令和3年度	令和3年4月	有識者より意見を伺う会（第2回）
	令和3年4月	恵庭市都市計画審議会 原案（諮問）
	令和3年5月～ 令和3年6月	パブリックコメント
	令和3年8月	恵庭市都市計画審議会 原案（答申）
	令和3年8月	計画の公表・北海道へ報告

令和3年版 恵庭市都市計画マスタープラン

2021年（令和3年）8月

編集・発行 恵庭市企画振興部まちづくり拠点整備室まちづくり推進課

〒061-1498 恵庭市京町1番地

電話 0123-33-3131

FAX 0123-33-3137

E-mail machi@city.eniwa.hokkaido.jp

